

施工プロセス検査（実施状況）チェックシート

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印 _____

品質検査員名 _____ 印 _____

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				／	□	／	□	／	□			／	□	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	打設前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。	打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		打設前	JISマーク表示認証工場で製造されJIS A 5308(レディーミストコンクリート)により粗骨材の最大寸法、空気量、スランプ、水セメント比および呼び強度等が指定されるレディーミストコンクリートは配合に臨場し、製造会社の材料試験成績表、配合表を保管していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表を監督職員に提出し、承諾を得ていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(CL-)が、許容塩化物量0.30kg/m3以下となっていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
掘削・床付工	躯体工の掘削・床付等において、施工基面の支持力が均等となるよう、かつ、不陸が無いように仕上げていることが確認できる。	施工時	躯体工の基礎底面に不陸が無く、平滑に仕上げている。また、構造物の隣接箇所や狭い箇所の締め固めをタンバ・振動ローラ等の小型締め固め機械により締め固めを行っていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		施工時	掘削完了後、基礎地盤の支持力を確認を行っていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
型枠・支保工	コンクリート打ち込み中の型枠・支保工の管理が適切であることが確認できる。	施工時	コンクリートの打ち込み前および打ち込み中に、型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	型枠のはらみ、モルタルの濡れ、移動、傾き、沈下、接続部の緩みなどに注意する。支保工の移動、傾き、沈下などに注意する。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日付	1	2	3	4	5					
鉄筋工 (受入・貯蔵)	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。	施工時	加工工場または現場納入時の鉄筋や鋼材について、その外観及び品質規格証明書(ミルシート)等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	搬入した鉄筋に付いているタグに記載されている「溶鋼番号」は、品質証明書(ミルシート)に記載されているそれと一致している。
		施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていくことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する場合は、現地試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認したうえで施工している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に示されていない鋼材(組立用鉄筋など)を配置する場合は、その鋼材についても所定のかぶりを確保し、かつその鋼材と他の鉄筋とのあきを粗骨材の最大寸法の4/3以上としていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鉄筋の重ね継手を行う場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm以上のなまし鉄線で数箇所緊結していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手の配置が同一断面に集中していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	将来の継ぎたしのために構造物から鉄筋を露出しておく場合には、損傷、腐食等をうけないようにこれを保護していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考	
				1	2	3	4	5	6			
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の様を満足していることが確認できる。	施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう堅固に組み立てていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	鉄筋の組立図より事前に配筋精度を確認しておく。
		施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm以上のなまし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工時	コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き錆、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれが無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
鉄筋工 (スペーサー)	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の様を満足していることが確認できる。	施工時	スペーサーを、構造物の側面については1m2あたり2個以上、構造物の底面については1m2あたり4個以上を適切に配置しており、かつ、適切に固定し鉄筋の所定のかぶりを確保していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	スペーサーについてはコンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
鉄筋工 (圧接)	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。	施工前	ガス圧接に従事する技術者が、該当する試験の技量を有することを確認し、資格証明書の写しを監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	圧接方法は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定)における試験方法及び判定基準)に定められた試験の種類のうち、その作業に該当する試験と同等の技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	自動ガス圧接装置を取り扱う者は、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に規定する棒鋼を酸素・アセチレン炎により圧接する技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考																	
コンクリート 受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308(レディーミストコンクリート)により実施しているか。生産者等に検査のための試験を代行させる場合はその試験に臨場していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																
		打設前	レディーミストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われ、規格値を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目・試験方法</th> <th>試験基準・適用</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スランプ試験 JIS A 1101</td> <td>・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> <tr> <td>空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128</td> <td>・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> <tr> <td>塩化物総量規制 コンクリートの 耐久性向上</td> <td>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前には1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</td> <td>・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。</td> </tr> <tr> <td>単位水量測定 レディーミスト コンクリートの 品質確保につ いて</td> <td>1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m³/日以上の場合: 2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m³ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</td> <td>示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本とする。</td> </tr> <tr> <td>コンクリートの 圧縮強度試験</td> <td>JIS A 1108 ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> </tbody> </table>	試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値	スランプ試験 JIS A 1101	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	塩化物総量規制 コンクリートの 耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前には1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	単位水量測定 レディーミスト コンクリートの 品質確保につ いて	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合: 2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	コンクリートの 圧縮強度試験	JIS A 1108 ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。								
試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値																											
スランプ試験 JIS A 1101	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																											
空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																											
塩化物総量規制 コンクリートの 耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前には1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。																											
単位水量測定 レディーミスト コンクリートの 品質確保につ いて	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合: 2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。																											
コンクリートの 圧縮強度試験	JIS A 1108 ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																											

※コンクリートの圧縮強度試験については、試験基準・適用に定められた頻度に応じた供試体採取を行っているかを確認する。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日	付	○	□	日	付			○	□	
コンクリート 受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、また、コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内で使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均をいう。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認を行う。
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート 打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締め固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	練り混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内となっていることが確認できる。											
		施工時	コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超え25℃以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日中平均気温が4度以下の時は寒中コンクリートとして、25度を超えるときは暑中コンクリートとして取り扱う。
		施工時	コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	シュート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均をいう。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認を行う。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印 _____

品質検査員名 _____ 印 _____

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				/	□	/	□	/	□			/	□	
コンクリート 打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃を越える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃以下の場合は2.5時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。
		施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、パイプレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。
		施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、パイプレータを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート 打設 (打継ぎ)	コンクリートの打設前に打ち継ぎ目の処理を適切に行っていることが確認できる。 床組みと一体になった柱、壁の打継ぎ目の施工が適切であることが確認できる。	施工時	硬化したコンクリートに、新コンクリートを打継ぐ場合は、その打込み前に型枠をしめ直し、硬化したコンクリートの表面のレイタンス、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、雑物などを取り除き吸水させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	スラブと一体となるハンチは、床組みと連続してコンクリートを打設していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備 考																	
コンクリート養生	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートがある程度硬化したら露出面を養生用マット、ぬらした布等でこれを覆うか、または散水、湛水を行い、少なくとも下表に示す期間、常に湿潤状態を保っていることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	その他のセメントを使用する場合や工事の期間、施工方法等によって養生期間を定める場合には、構造物の種類、位置、気象条件等を考慮し、試験によって確認した上で決定する。																	
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th>日平均気温</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントB種</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15℃以上</td> <td>5日</td> <td>7日</td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>10℃以上</td> <td>7日</td> <td>9日</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>9日</td> <td>12日</td> <td>5日</td> </tr> </tbody> </table>			日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント	15℃以上	5日		7日	3日	10℃以上	7日	9日	4日	5℃以上	9日	12日	5日							
		日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント																							
		15℃以上	5日	7日	3日																							
10℃以上	7日	9日	4日																									
5℃以上	9日	12日	5日																									
施工時	【暑中コンクリート】 特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。																		
施工時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	打込後ただちにシートその他適切な材料で表面を覆い、特に風を防ぐことが重要。																		
	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる。	施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められていない場合には、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画を施工計画書に記載していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による																	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【コンクリート構造物工事】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考						
脱型	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる。	脱型時	コンクリートがその自重及び施工に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取外していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による	
		型枠および支保工の取外しに必要なコンクリートの圧縮強度の参考値															
				部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)											
				厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの側面	3.5											
				薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内面	柱、壁、はりの側面	5.0											
		スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内面	14.0													
		脱型時	型枠の組立に使用した締付け材の穴及び壁つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル等で補修していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート表面から2.5cmの間にあるボルト、棒鋼等の部分は注意が必要	
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場で採取した供試体と同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	型枠及び支保工の取り外し後の管理が適切であることが確認できる。	脱型時	型枠及び支保工を取外した直後に構造物へ載荷する場合は、構造物が有害なひび割れその他の損傷を受けないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	載荷する場合は、コンクリートの圧縮強度を元に計算等により確認する	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】土工(切土、盛土、堤防等工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考																				
				/	□	/	□	/	□			/	□																		
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		
	建設発生土の処理及び運搬計画は適切であることが確認できる。	施工前	建設発生土の処理方法及び運搬路が施工計画書に適切に明示されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		
	伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	伐開除根作業範囲が設計図書に示されていない場合は、下表に従い施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		
	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">種別</th> </tr> <tr> <th>雑草・ささ類</th> <th>倒木</th> <th>古根株</th> <th>立木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>河川・海岸・砂防土工</td> <td>盛土箇所全部</td> <td>根からすきとる</td> <td>除去</td> <td>抜根除去</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">道路土工</td> <td>盛土高1mを越える場合</td> <td>地面で刈り取る</td> <td>同上</td> <td>根本で切り取る</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>盛土高1m以下の場合</td> <td>根からすきとる</td> <td>同上</td> <td>抜根除去</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>					区分	種別				雑草・ささ類	倒木	古根株	立木	河川・海岸・砂防土工	盛土箇所全部	根からすきとる	除去	抜根除去	同左	道路土工	盛土高1mを越える場合	地面で刈り取る	同上	根本で切り取る	同左	盛土高1m以下の場合	根からすきとる	同上	抜根除去	同左
	区分	種別																													
		雑草・ささ類	倒木	古根株	立木																										
河川・海岸・砂防土工	盛土箇所全部	根からすきとる	除去	抜根除去	同左																										
道路土工	盛土高1mを越える場合	地面で刈り取る	同上	根本で切り取る	同左																										
	盛土高1m以下の場合	根からすきとる	同上	抜根除去	同左																										
材料確認 (盛土材料)	盛土材の管理は適切であることが確認できる。	施工時	盛土材料に石が混入する場合に、石が一ヶ所に集まっていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印 _____

品質検査員名 _____ 印 _____

【共通編】土工(切土、盛土、堤防等工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄								下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6	7	8					
盛土 地盤処理	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	盛土工、路体盛土工、路床盛土工の作業終了時または作業を中断する場合には、表面に3~5%程度の横断勾配を設けており、平坦に締固め、排水が良好に行われるようになっていくことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。	施工時	1:4より急な勾配を有する地盤上に(路体)盛土を行う場合には、段切を行い、盛土と現地盤との密着を図り、滑動を防止していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
				<p>現地の勾配が1:4以上 最小高0.5m 最小幅1.0m</p>												
	置換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下を乱さないように施工していることが確認できる。	施工時	置換えのための掘削を行うにあたり、掘削面以下の層を乱さないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
まきだし 締固め	締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	締固め作業にあたり、適切な含水比の状態で行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。	施工時	築堤・路体・路床盛土工の施工において、一層の仕上り厚を30cm以下(路床盛土の場合、20cm以下)としており、平坦に締固めており、各層で締固めを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。	施工時	構造物の隣接箇所や狭い箇所の盛土について、タンバ・振動ローラ等の小型締固め機械により締固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	樋管等の構造物がある場合には、過重な偏土圧のかからないように盛土し、締固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
CBR試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。	施工時	CBR試験などの品質管理に必要な試験を行っており、規格値を満足していることが確認できる。(試験は、品質管理基準、特記仕様書、施工計画書等を参考にする。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】土工(切土、盛土、堤防等工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考	
				/	□	/	□	/	□			/
法面仕上げ	法面に有害な亀裂がないことが確認できる。	施工時	法面に有害な亀裂がないのが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	土羽土の土質が設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	土羽土の土質について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
芝付け及び種子吹付	芝付け及び種子吹付を設計図書で定められた条件で行っていることが確認できる。	施工時	芝付け及び種子吹付を設計図書で定められた条件で行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	材料の種類、品質、配合等について確認。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印

品質検査員名 _____ 印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考					
				1	2	3	4	5	6							
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
基礎工 丁張り設置	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる	施工時	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
作業土工	基礎工において掘り過ぎがなく施工していることが確認できる	施工時	床付けの仕上がり面においては、地山を乱さないように、かつ不陸が生じないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
作業土工	施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滞水等は排除して施工していることが確認できる	施工時	床付け箇所の湧水及び滞水などは、ポンプあるいは排水溝を設けるなどして排除していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
基礎工 基礎砕石敷均し	基礎砕石の締固め状況が適切であることが確認できる	施工時	切込砂利、砕石基礎工、割ぐり石基礎工の施工においては、床掘り完了後(割ぐり石基礎には割ぐり石に切込砂利、砕石などの間隙充てん材を加え)締固めながら仕上げていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
プレキャスト 基礎据付	プレキャスト基礎の設置において、沈下等の影響がないことが確認できる	施工時	沈下等による法覆工の安定に影響が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート 打設	コンクリートの打設が適切であることが確認できる	施工時	コンクリート施工に際して、水中打ち込みを行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				/	□	/	□	/	□			/	□	
作業土工 (埋戻し)	埋め戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	埋戻しの材料は設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	埋め戻し方法が適切であることが確認できる	施工時	水密性を確保しなければならない箇所の埋戻しにあたり、埋戻し材に含まれる石等が一ヶ所に集中しないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	埋戻しを行うにあたり埋設構造物がある場合は、偏土圧が作用しないように埋戻していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
鋼矢板資材 受入	搬入された鋼矢板は所要の規格を満足していることが確認できる	施工前	鋼矢板の品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鋼矢板の運搬、保管状況が適切であることが確認できる	施工時	鋼矢板の運搬、保管にあたっては、矢板の表面、継手、開先部分などに損傷を与えず、また杭の断面特性を考慮して大きなたわみ、変形を生じないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
鋼矢板 打込	打込み方法および打込み精度が適切であることが確認できる	施工時	矢板の打込みにあたり、導材を設置するなどして、ぶれ、よじれ、倒れを防止し、また隣接矢板が共下りしないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ウォータージェットを用いて矢板を施工する場合は、最後の打ち止めを併用機械で貫入させ、落ち着かせていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鋼矢板の根入れが十分であることが確認できる	施工時	所要の深度まで打ち込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
杭継ぎ	継ぎ杭の施工方法が適切であることが確認できる	施工時	現場継手については、アーク溶接継手とし、現場溶接に際しては溶接工の選定及び溶接の管理、指導、検査を行う溶接施工管理技術者を常駐させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	溶接工の技量が適切であることが確認できる	施工時	鋼矢板の溶接作業については、所要な技術を有する者が行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
			※ JIS Z 3801(手溶接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験のうち、その作業に該当する試験(または同等以上の検定試験)に合格した者でかつ現場溶接の施工経験が6か月以上の者に行わせている。ただし、半自動溶接を行う場合は、JIS Z 3841(半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験の種類のうち、その作業に該当する試験(またはこれと同等以上の検定試験)に合格した者に行わせている。											
	溶接作業環境が適切であることが確認できる	施工時	降雪雨時、強風時に露地で鋼管杭の溶接作業を行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	溶接作業環境が適切であることが確認できる	施工時	作業が可能なように、遮へいした場合等には、気温が5℃以下の時は溶接を行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	母材に不純物が付着していないことが確認できる	施工時	鋼矢板の溶接部の表面のさび、ごみ、泥土等の有害な付着物をワイヤブラシ等でみがいて清掃し、乾燥させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
溶接後、直ぐに打ち込んでいないことが確認できる	施工時	溶接後は200℃程度まで自然放熱させた後に打込みを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考					
				日付	チェック	日付	チェック	日付	チェック			日付	チェック			
材料受入	指定材料の品質が証明書類で確認できる	施工前	設計図書において指定された材料について、見本又は品質を証明する資料を提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリートブロックの品質が適切であることが確認できる	施工前	コンクリートブロックの品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	コンクリートブロックは有害なひび割れ等損傷のないものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	石積張工において大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工前	石積張工において大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
遮水・止水シート張り	遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	法面を平滑に仕上げしてから遮水シートを敷設していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	シートの重ね幅は15cm以上、端部の取付部は20cm以上で設置していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				/	□	/	□	/	□			/	□	
石・コンクリート ブロック積張工	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないように十分に行っていることが確認できる	施工前	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないように十分に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	端末部及び曲線部等で間隙が生じる場合は、半ブロックを用いるものとし、半ブロックの設置が難しい場合はコンクリート等を用いて施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる	施工時	コンクリートブロックの合端を合わせて固定し、胴込めコンクリートを充てんした後締固め、合端付近に空隙が生じないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレキャストコンクリート板を使用するコンクリートブロック張りにおいて、ブロックの目地詰めには、空隙を生じないように目地材を充てんし、表面を平滑に仕上げていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	緑化ブロック、石積張、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる	施工時	緑化ブロック、石積張、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
覆土工	施工が適切であることが確認できる	施工前	覆土に用いる材料の品質が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	厚さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
植生工	植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	芝付け及び種子吹付を設計図書で定められた条件で行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	材料の種類、品質、配合等について確認
かごマット工	かごの組み立ておよび栗石の投入状況が適切であることが確認できる	施工時	かごマットの中詰用ぐり石には、かごの厚さが30cmの場合は5cm～15cm、かごの厚さが50cmの場合は、15cm～20cmのもので、網目より大きな天然石または割ぐり石を使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考					
				/	□	/	□	/	□			/	□			
かごマット工	材料のかみ合わせ等が適切であることが確認できる	施工時	かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸い出しがないよう行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
根固め工	根固めブロックの型枠脱型が適切であることが確認できる	施工時	根固めブロックの脱型は型枠自重及び製作中に加える荷重に耐えられる強度に達するまで行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	根固めブロックの運搬及び据付けについては、根固めブロックに損傷を与えないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
根固め工	コンクリートブロック等を損傷なく施工していることが確認できる	施工時	根固めブロックの据付けは、各々の根固めブロックを連結する場合、連結ナットが抜けないようにネジ山をつぶしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
根固め工	根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	根固めブロックの乱積施工は、噛み合わせが良く、不安定な状態が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
捨石工		施工時	捨石基礎の施工にあたっては、大小の石でかみ合わせ良く、均し面にゆみがないよう施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
コンクリート工準備工	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。	打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		打設前	JISマーク表示認証工場で製造されJIS A 5308(レディーミストコンクリート)により粗骨材の最大寸法、空気量、スランプ、水セメント比および呼び強度等が指定されるレディーミストコンクリートは配合に臨場し、製造会社の材料試験成績表、配合表を保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表を監督職員に提出し、承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備 考			
				日付	チェック	日付	チェック	日付	チェック			日付	チェック	
コンクリート工 準備工	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。	打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(CL-)が、許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
型 枠	コンクリート打ち込み中の型枠・支保工の管理が適切であることが確認できる。	施工時	コンクリートの打ち込み前および打ち込み中に、型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	型枠のはらみ、モルタルの漏れ、移動、傾き、沈下、接続部の緩みなどに注意する。支保工の移動、傾き、沈下などに注意する。
コンクリート 受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308(レディーミストコンクリート)により実施しているか。生産者等に検査のための試験を代行させる場合はその試験に臨場していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考																			
				/	□	/	□	/	□	/	□		/	□																	
コンクリート 受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	レディーミストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われ、規格値を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目・試験方法</th> <th>試験基準・適用</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スランプ試験 JIS A 1101</td> <td>・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> <tr> <td>空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128</td> <td>・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> <tr> <td>塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上</td> <td>コンクリートの打設が午前と午後とにまたがる場合は、午前と1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</td> <td>・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法1(JISCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心筋筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。</td> </tr> <tr> <td>単位水量測定 レディーミストコンクリートの品質確保について</td> <td>1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m³/日以上の場合、2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m³ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときと、測定回数は多い方を採用する。</td> <td>示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本とする。</td> </tr> <tr> <td>コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108</td> <td>・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m³ごとに1回 なお、テストピースは打設場所から採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)</td> <td>小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。</td> </tr> </tbody> </table>	試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値	スランプ試験 JIS A 1101	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後とにまたがる場合は、午前と1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法1(JISCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心筋筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	単位水量測定 レディーミストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合、2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときと、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所から採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。										
		試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値																											
		スランプ試験 JIS A 1101	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																											
		空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																											
塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後とにまたがる場合は、午前と1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法1(JISCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心筋筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。																													
単位水量測定 レディーミストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合、2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときと、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。																													
コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所から採取し、1回につき6本(σ7...3本、σ28...3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3...3本についても採取する)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上、またレディーミストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																													
			※コンクリートの圧縮強度試験については、試験基準・適用に定められた頻度に応じた供試体採取を行っているかを確認する。																												
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、また、コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内で使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均をいう。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認を行う。																	
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄					下段:コメント			備考				
				日	月	年	確認	不適合	内容	内容	内容					
コンクリート 打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	練り混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超え25℃以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温が4℃以下の時は寒中コンクリートとして、25度を超えるときは暑中コンクリートとして取り扱う。
		施工時	コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	シュート、ポンプ配管、バケツ、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均をいう。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認を行う。
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃を超える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃以下の場合場合は2.5時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。
		施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考																				
コンクリート 打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、バイブレーターを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																
		施工時	コンクリートがある程度硬化したら露出面を養生用マット、ぬらした布等でこれを覆うか、または散水、湛水を行い、少なくとも下表に示す期間、常に湿润状態を保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	その他のセメントを使用する場合や工事の期間、施工方法等によって養生期間を定める場合には、構造物の種類、位置、気象条件等を考慮し、試験によって確認した上で決定する。															
コンクリート 養生	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <tr> <th>日平均気温</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントB種</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> </tr> <tr> <td>15℃以上</td> <td>5日</td> <td>7日</td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>10℃以上</td> <td>7日</td> <td>9日</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>9日</td> <td>12日</td> <td>5日</td> </tr> </table>			日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント	15℃以上	5日	7日	3日	10℃以上	7日	9日	4日	5℃以上	9日	12日	5日											
		日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント																										
		15℃以上	5日	7日	3日																										
		10℃以上	7日	9日	4日																										
5℃以上	9日	12日	5日																												
施工時	【暑中コンクリート】 特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。															
施工時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	打込後ただちにシートその他適切な材料で表面を覆い、特に風を防ぐことが重要。															
脱型	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる。	施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められていない場合には、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画を施工計画書に記載していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による															
		脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保工を取外していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による															
		<p>型枠および支保工の取外しに必要なコンクリートの圧縮強度の参考値</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: x-small;"> <thead> <tr> <th>部材面の種類</th> <th>例</th> <th>コンクリートの圧縮強度 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面</td> <td>フーチングの外側面</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面</td> <td>柱、壁、はりの側面</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面</td> <td>スラブ、はりの底面、アーチの内側面</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table>																部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)	厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの外側面	3.5	薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面	柱、壁、はりの側面	5.0	スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内側面	14.0		
部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)																													
厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの外側面	3.5																													
薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面	柱、壁、はりの側面	5.0																													
スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内側面	14.0																													

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川編】護岸・根固・水制工事

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備 考				
				年	月	日	確認	確認	確認			確認	確認	確認	
脱型	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる。	脱型時	型枠の組立に使用した締付け材の穴及び壁つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル等で補修していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート表面から2.5cmの間にあるボルト、棒鋼等の部分は注意が必要	
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	脱型時	型枠及び支保工の取り外し後の管理が適切であることが確認できる。	型枠及び支保工を取外した直後に構造物へ載荷する場合は、構造物が有害なひび割れその他の損傷を受けないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【道路編】鋼橋上部工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考	
				/	□	/	□	/	□			/
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	架設準備として下部工の検測を行っていることが確認できる。	施工前	下部工の橋座高及び支承間距離の検測を行いその結果を監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
沓据付工	支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切り勾配がついていることが確認できる。	施工時	沓座面はチッピングを行い、浮き骨材やゴミなどを取り除いていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	仕上げ面に水切り勾配がついていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
鋼橋架設工	架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。	施工時	架設にあたっては、架設時の部材の応力と変形等を十分検討し、上部工に対する悪影響が無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	架設に用いる仮設備及び架設用機材について、品質、性能が確保できる規模及び強度を有していることを確認している。	施工時	架設に用いる仮設備及び架設用機材について、工事目的物の品質、性能が確保できる規模及び強度を有していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。	施工時	締付け確認をボルト締付け後すみやかにを行い、その記録を整備および保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ボルトの締付け確認については、トルク法による場合は、各ボルト群の10%のボルト本数を標準として、トルクレンチによって締付け確認を行っていることが確認できる。また、トルシア形高力ボルトの場合は、全数につきピンテールの切断の確認とマーキングによる外観確認を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	回転法及び耐力点法による場合は、全般についてマーキングによる外観確認を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編】鋼橋上部工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				/	□	/	□	/	□			/	□	/
鋼橋架設工	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。	施工時	ボルトの締付け機、測量器具などの検定を現地施工に先立ち現地搬入直前に1回、搬入後はトルクレンチは1ヶ月毎にその他の機器は3ヶ月毎に点検を行い精度を確認していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ボルトの締付けを、連結板の中央のボルトから順次端部ボルトに向かって行き、2度締めを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	予備締め後には締め忘れや共まわりを容易に確認できるようにボルトナット及び座金にマーキングを行なっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	高力ボルトの品質が証明書類で確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
伸縮装置・検査路・排水装置等取付工	伸縮装置の据付け方法が適切であることが確認できる。	施工時	伸縮装置の据付けについては、施工時の気温を考慮し、設計時の標準温度で、橋と支承の相対位置が標準位置となるよう温度補正を行って据付け位置を決定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	伸縮装置工の漏水防止の方法について、設計図書により行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
現場塗装工	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。	施工時	被塗装面の素地調整状態を確認したうえで下塗りを施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	天災その他の理由によりやむを得ず下塗りが遅れ、そのためさびが生じたときは再び素地調整を行い、塗装していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	塗料の塗り重ねにあたって、先に塗布した塗料が乾燥(硬化)状態になっていることを確認したうえで行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編】鋼橋上部工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考																																															
現場塗装工	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。	施工時	現場塗装終了後、塗膜厚検査を行い、塗膜厚測定記録を作成及び保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																											
		完成時																																																								
	現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。	施工時	塗布作業時の気温・湿度の制限が共通仕様書表2-9に示す場合は、塗装を行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																											
				<p>表2-9 塗装禁止条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th>塗装の種類</th> <th>気温 (°C)</th> <th>湿度 (RH%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー</td> <td rowspan="2">0以下</td> <td rowspan="2">50以下</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチペイント</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>重鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)</td> <td>5以下、20以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10以下、30以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)</td> <td>5以下、20以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ※印を付した塗料を低温時に塗布する場合は、低温用の塗料を用いなければならない。</p>												塗装の種類	気温 (°C)	湿度 (RH%)	長ばく形エッチングプライマー	5以下	85以上	無機ジンクリッチプライマー	0以下	50以下	無機ジンクリッチペイント	有機ジンクリッチペイント	10以下	85以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10以下	85以上	重鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10以下	85以上	エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)	5以下、20以上	85以上	無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※	10以下、30以上	85以上	無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)	5以下、20以上	85以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5以下	85以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5以下	85以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5以下	85以上
塗装の種類	気温 (°C)	湿度 (RH%)																																																								
長ばく形エッチングプライマー	5以下	85以上																																																								
無機ジンクリッチプライマー	0以下	50以下																																																								
無機ジンクリッチペイント																																																										
有機ジンクリッチペイント	10以下	85以上																																																								
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10以下	85以上																																																								
重鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上																																																								
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10以下	85以上																																																								
エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)	5以下、20以上	85以上																																																								
無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※	10以下、30以上	85以上																																																								
無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)	5以下、20以上	85以上																																																								
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5以下	85以上																																																								
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5以下	85以上																																																								
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上																																																								
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5以下	85以上																																																								

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編】鋼橋上部工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
床版工	床版打設にコンクリートポンプを使用する場合の施工は適切であることが確認できる。	施工時	コンクリート打込み作業にあたり、コンクリートポンプを使用する場合は下記により行っていることが確認できる。 ① ポンプ施工を理由にコンクリートの品質を下げていない。 ② 吐出しにおけるコンクリートの品質が安定するまで打設を行っていない。 ③ 配管打設する場合は、鉄筋に直接パイプ等の荷重がかからないように足場等の対策を行っている。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリートの打継目の設定は適切であることが確認できる。	施工時	橋軸方向に平行な打継目は作っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	橋軸直角方向は、一直線状になるよう打込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋組み立て、型枠支保工、コンクリートの打設方法は適切であることが確認できる。	施工時	コンクリートエチェックシートにおける『コンクリート打設』のプロセス確認の結果に問題ないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	床版の出来形管理は適切であることが確認できる。	施工時	コンクリート打込みにあたっては、型枠支保工の設置状態を常に監視しており、所定の床版厚さ及び鉄筋配置の確保に努めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	伸縮継手部の施工は適切であることが確認できる。	施工時	鋼製伸縮継手フェースプレート下部に空隙が生じないように箱抜きをして、無収縮モルタルにより充填していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	桁のキャンパー管理は適切であることが確認できる。	打設完了時	床版コンクリート打設前及び完了後、キャンパーを測定し、その記録を整備および保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
橋梁付属物工	橋梁用高欄工の施工は適切であることが確認できる。	施工時	橋梁上部工の支間の支保工をゆるめた後で、施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	打設前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
作業土工	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる	施工時	岩盤掘削等において、基礎岩盤をゆるめるような大規模な発破を行ってはいないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	掘削にあたって、基礎面をゆるめないように施工し、浮石などは除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	基礎面を著しい凹凸のないように整形していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	発生土の処理状況が適切であることが確認できる	施工時	設計図書により、建設発生土を指定された建設発生土受け入れ地に運搬し、流出、崩壊が生じないように排水、法面処理を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	余掘り箇所の対処が適切であることが確認できる	施工時	監督職員の承諾を得ないで掘削した箇所はコンクリートで埋め戻していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
堰堤工	基礎面の湧水の処理が適切であることが確認できる	施工時	基礎面における湧水の処理について、コンクリートの施工前までに設計図書に関して監督職員と協議していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリートの打ち継ぎが適切であることが確認できる	施工時	旧コンクリートの材令が所要日数に達した後に新コンクリートを打ち継いでいることが確認できる。あるいは、施工前に設計図書に関して監督職員の承諾を得ていることが確認できる。 0.75m以上1.0m未満リフトの場合:3日(中2日) 1.0m以上1.5m未満リフトの場合:4日(中3日) 1.5m以上2.0m以下リフトの場合:5日(中4日)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄								下段:コメント	備考			
堰堤工	コンクリートの打込み、養生方法が適切であることが確認できる	施工時	次の事項に該当する場合はコンクリートの打込みと養生方法及び期間について、施工前に設計図書に関して監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		(1)コンクリート打設現場の日平均気温が4℃以下になるおそれのある場合。 (2)打込むコンクリートの温度が25℃以上になるおそれのある場合。 (3)降雨・降雪の場合。 (4)強風その他、コンクリート打込みが不適当な状況になった場合。														
	コンクリート打設面の基礎岩盤面の状況が適切であることが確認できる	施工時	コンクリート打込み前にあらかじめ基礎岩盤面の浮石、堆積物、油及び岩片等を除去したうえで、圧力水等により清掃し、溜水、砂等を除去している。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートを打込む基礎岩盤及び水平打継目のコンクリートについては、あらかじめ吸水させ、湿润状態にしたうえで、モルタルを塗り込むように敷均していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	打継面の処理および敷モルタルの強度が適切であることが確認できる	施工時	モルタルの配合は本体コンクリートの品質を損なわないもので、また、敷き込むモルタルの厚さは平均厚で、岩盤では2cm程度、水平打継目では1.5cm程度になっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	水平打継目の処理については、圧力水等により、レイタンス、雑物を取り除くと共に清掃をしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリート打設方法が適切であることが確認できる	施工時	コンクリート打込み用バケットを、その下端が打込み面上1m以下に達するまで降ろし、打込み箇所のできるだけ近くにコンクリートを排出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートを打込み箇所に運搬後、ただちに振動機で締固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	1リフトを数層に分けて打込むときには、締固めた後の1層の厚さが、40～50cmになるように打込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	_____	印
品質検査員名	_____	印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日付	確認	日付	確認	日付	確認					
堰堤工	コンクリート打設方法が適切であることが確認できる	施工時	1リフトの高さは0.75m以上2.0m以下とし、同一区画内は連続して打込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	養生状況が適切であることが確認できる	施工時	コンクリートの養生を散水等により行っていることが確認できる。コンクリートの養生方法については、外気温、配合、構造物の大きさを考慮して適切に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	止水板、吸出し防止材の設置状況が適切であることが確認できる	施工時	止水板の接合において合成樹脂製の止水板を使用する場合は、突合わせ接合としていることが確認できる。また、接合完了後には接合部の止水性について監督職員の確認を受けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	吸出し防止材の施工については、吸出し防止材を施工面に平滑に設置していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる	施工時	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
側壁工	植石張りの施工状況が適切であることが確認できる	施工時	植石は、その長手を流水方向に平行においていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	植石張りの目地モルタルについては、植石張り付け後ただちに施工し、目地は押目地仕上げとされていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
堰堤工 (鋼製)	枠材のつり込み状況が適切であることが確認できる	施工時	鋼製枠の吊り込みにあたっては、塗装面に損傷を与えないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	枠内中詰め材の投入方法が適切であることが確認できる	施工時	枠内中詰め材投入の際には、鋼製枠に直接詰石、建設機械等が衝突しないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる	施工時	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる	施工時	ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
現場塗装工	塗装時期が適切であることが確認できる	施工時	鋼製堰堤の現場塗装は、鋼製堰堤の据付け終了後に行なっていることが確認できる。これ以外の場合は、設計図書によっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	現場塗装部のケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる	施工時	被塗装面の素地調整状態を確認したうえで下塗りを施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	天災その他の理由によりやむを得ず下塗りが遅れ、そのためさびが生じたときは再び素地調整を行い、塗装していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	塗料の塗り重ねにあたって、先に塗布した塗料が乾燥(硬化)状態になっていることを確認したうえで行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	現場塗装終了後、塗膜厚検査を行い、塗膜厚測定記録を作成及び保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄 下段:コメント								備考																																									
				/	□	/	□	/	□	/	□		/	□																																							
現場塗装工	現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる	施工時	塗布作業時の気温・湿度の制限が共通仕様書表2-9に示す場合は、塗装を行っていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																								
		表2-9 塗装禁止条件 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>塗装の種類</th> <th>気温 (°C)</th> <th>湿度 (RH%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長ばく形エッチングプライマー</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント</td> <td>0以下</td> <td>50以下</td> </tr> <tr> <td>有機ジンクリッチペイント</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>超厚膜形エポキシ樹脂塗料</td> <td>10以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)</td> <td>5以下、20以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※</td> <td>10以下、30以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)</td> <td>5以下、20以上</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗</td> <td>0以下</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗</td> <td>5以下</td> <td>85以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ※印を付した塗料を低温時に塗布する場合は、低温用の塗料を用いなければならない。</p>				塗装の種類	気温 (°C)	湿度 (RH%)	長ばく形エッチングプライマー	5以下	85以上	無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0以下	50以下	有機ジンクリッチペイント	10以下	85以上	エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10以下	85以上	亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10以下	85以上	エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)	5以下、20以上	85以上	無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※	10以下、30以上	85以上	無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)	5以下、20以上	85以上	コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5以下	85以上	ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5以下	85以上	ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上	鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5以下	85以上						
塗装の種類	気温 (°C)	湿度 (RH%)																																																			
長ばく形エッチングプライマー	5以下	85以上																																																			
無機ジンクリッチプライマー 無機ジンクリッチペイント	0以下	50以下																																																			
有機ジンクリッチペイント	10以下	85以上																																																			
エポキシ樹脂塗料下塗 ※ 変性エポキシ樹脂塗料下塗 変性エポキシ樹脂塗料内面用 ※	10以下	85以上																																																			
亜鉛めっき用エポキシ樹脂塗料下塗 弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	5以下	85以上																																																			
超厚膜形エポキシ樹脂塗料	10以下	85以上																																																			
エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料下塗 (低温用) 変性エポキシ樹脂塗料内面用 (低温用)	5以下、20以上	85以上																																																			
無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 ※	10以下、30以上	85以上																																																			
無溶剤変性エポキシ樹脂塗料 (低温用)	5以下、20以上	85以上																																																			
コンクリート塗装用エポキシ樹脂プライマー	5以下	85以上																																																			
ふっ素樹脂塗料用中塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 コンクリート塗装用エポキシ樹脂塗料中塗 コンクリート塗装用柔軟形エポキシ樹脂塗料中塗	5以下	85以上																																																			
ふっ素樹脂塗料上塗 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用ふっ素樹脂塗料上塗 コンクリート塗装用柔軟形ふっ素樹脂塗料上塗	0以下	85以上																																																			
鉛・クロムフリーさび止めペイント 長油性フタル酸樹脂塗料中塗 長油性フタル酸樹脂塗料上塗	5以下	85以上																																																			

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				/	□	/	□	/	□			/	□	
法面工	アンカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	アンカーの削孔に際して、設計図書に示された位置、削孔径、長さ及び方向で施工し、周囲の地盤を乱さないよう施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	削孔について直線性を保つよう施工し、削孔後の孔内は清水によりスライムを除去し、洗浄していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	アンカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	材料を保管する場合は、保管場所を水平で平らな所を選び、地表面と接しないように角材等を敷き、降雨にあたらぬようにシート等で覆い、湿気、水に対する配慮を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	アンカーの緊張定着については、グラウトが所定の強度に達した後緊張力を与え、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験、定着時緊張力確認試験等により変位特性を確認し、所定の有効緊張力が得られるよう緊張力を与えていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
コンクリート工 準備工	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる	打設前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	JISマーク表示認証工場で製造されJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)により粗骨材の最大寸法、空気量、スランプ、水セメント比および呼び強度等が指定されるレディーミクストコンクリートは配合に臨場し、製造会社の材料試験成績表、配合表を保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表を監督職員に提出し、承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(CL-)が、許容塩化物量0.30kg/m3以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
型枠・支保工	コンクリート打ち込み中の型枠・支保工の管理が適切であることが確認できる	施工時	コンクリートの打ち込み前および打ち込み中に、型枠及び支保工の不具合の有無を適切に管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	型枠のはらみ、モルタルの漏れ、移動、傾き、沈下、接続部の緩みなどに注意する。支保工の移動、傾き、沈下などに注意する。
鉄筋工 (受入・貯蔵)	鉄筋の品質が証明書類で確認できる	施工時	加工工場または現場納入時の鉄筋や鋼材について、その外観及び品質規格証明書(ミルシート)等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	搬入した鉄筋に付いているタグに記載されている「溶鋼番号」は、品質証明書(ミルシート)に記載されているそれと一致している。
	鉄筋の貯蔵が適切に行われていることが確認できる	施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	_____	印
品質検査員名	_____	印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄					下段:コメント			備考		
				日付	チェック	日付	チェック	日付	コメント	コメント	コメント			
鉄筋工 (加工・組立)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	現場加工においては鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する場合は、現地試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に示されていない鋼材(組立用鉄筋など)を配置する場合は、その鋼材についても所定のかぶりを確保し、かつその鋼材と他の鉄筋とのあきを粗骨材の最大寸法の4/3以上としていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鉄筋の重ね継手を行う場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm以上のなまし鉄線で数箇所緊結していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手の配置が同一断面に集中していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	将来の継ぎたしのために構造物から鉄筋を露出しておく場合には、損傷、腐食等をうけないようにこれを保護していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう堅固に組み立てていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	鉄筋の組立図より事前に配筋精度を確認しておく。
		施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm以上のなまし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き錆、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれが無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄								備考							
鉄筋工 (スペーサー)	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の様を満足していることが確認できる	施工時	スペーサーを、構造物の側面については1m2あたり2個以上、構造物の底面については1m2あたり4個以上を適切に配置しており、かつ、適切に固定し鉄筋の所定のかぶり確保していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□						
		施工時	スペーサーについてはコンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するものを使用していることが確認できる。(施工計画書と一致している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□						
コンクリート 受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308(レディミクストコンクリート)により実施しているか。生産者等に検査のための試験を代行させる場合はその試験に臨場していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□						
		打設前	レディミクストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われ、規格値を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験項目・試験方法</th> <th>試験基準・適用</th> <th>規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スランプ試験 JIS A 1101</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> <tr> <td>空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> <tr> <td>塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上</td> <td> コンクリートの打設が午前と午後に分かれる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。 またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JIS C 5022:2003)または設計図書の規定により行う。 用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略される。 </td> </tr> <tr> <td>単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について</td> <td> 1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100㎡/日以上の場合2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150㎡ごと1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。 </td> <td> 示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/㎡、40mmの場合は185kg/㎡を基本とする。 </td> </tr> <tr> <td>コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごと1回 なお、テストピースは打設場所を採取し、1回につき6本(σ7~3本、σ28~3本)とする。(早強セメントを使用する場合は、必要に応じてσ3~3本についても採取する) </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> </tbody> </table>	試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値	スランプ試験 JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後に分かれる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。 またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JIS C 5022:2003)または設計図書の規定により行う。 用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略される。 	単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100㎡/日以上の場合2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150㎡ごと1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/㎡、40mmの場合は185kg/㎡を基本とする。	コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108
試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値																	
スランプ試験 JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																	
空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																	
塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後に分かれる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> 小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。 またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JIS C 5022:2003)または設計図書の規定により行う。 用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略される。 																	
単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100㎡/日以上の場合2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150㎡ごと1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/㎡、40mmの場合は185kg/㎡を基本とする。																	
コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごと1回 なお、テストピースは打設場所を採取し、1回につき6本(σ7~3本、σ28~3本)とする。(早強セメントを使用する場合は、必要に応じてσ3~3本についても採取する) 	小規模工種で1工種当りの総使用量が90㎡未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																	

※コンクリートの圧縮強度試験については、試験基準・適用に定められた頻度に応じた供試体採取を行っているかを確認する。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印 _____
 品質検査員名 _____ 印 _____

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄					下段:コメント					備考
				日	月	年	確認	不適合	日	月	年	内容	内容	
コンクリート受入	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる	打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、また、コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内で使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均を用いる。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる	施工時	練り混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超え25℃以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温が4度以下の時は寒中コンクリートとして、25度を超えるときは暑中コンクリートとして取り扱う。
		施工時	コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	シュート、ポンプ配管、バケット、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	日平均気温とは、1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均を用いる。暑中コンクリートの適用に関する判断は請負者へのヒアリングにて確認
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5~20℃の範囲に保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃を超える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名 _____ 印
品質検査員名 _____ 印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考																							
				1	2	3	4	5	6																									
コンクリート 打設	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締め固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる	施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃以下の場合2.5時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	暑中コンクリートの場合、特にコールドジョイントが生じやすいため注意する。																				
		施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、パイプレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	これまでの施工実績に基づき、1箇所あたりの振動時間は5~15秒とする。																				
		施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、パイプレータを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																					
コンクリート 打設	コンクリートの打設前に打ち継ぎ目の処理を適切に行っていることが確認できる。	施工時	硬化したコンクリートに、新コンクリートを打継ぐ場合は、その打込み前に型枠をしめ直し、硬化したコンクリートの表面のレイタンス、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、雑物などを取り除き吸水させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																					
コンクリート 打設 (養生)	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	コンクリートがある程度硬化したら露出面を養生用マット、ぬらした布等でこれを覆うか、または散水、湛水を行い、少なくとも下表に示す期間、常に湿潤状態を保っていることが確認できる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日平均気温</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントB種</th> <th>早強ポルトランドセメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15℃以上</td> <td>5日</td> <td>7日</td> <td>3日</td> </tr> <tr> <td>10℃以上</td> <td>7日</td> <td>9日</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>9日</td> <td>12日</td> <td>5日</td> </tr> </tbody> </table>				日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント	15℃以上	5日	7日	3日	10℃以上	7日	9日	4日	5℃以上	9日	12日	5日	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	その他のセメントを使用する場合や工事の期間、施工方法等によって養生期間を定める場合には、構造物の種類、位置、気象条件等を考慮し、試験によって確認した上で決定する。
				日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント																											
15℃以上	5日	7日	3日																															
10℃以上	7日	9日	4日																															
5℃以上	9日	12日	5日																															
コンクリート 養生	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	【暑中コンクリート】 特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	散水、シートによる覆い等による適切な処置が必要。																				
		施工時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	打込後ただちにシートその他適切な材料で表面を覆い、特に風を防ぐことが重要。																				

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:

対象箇所:

主任検査職員名

印

品質検査員名

印

【砂防編】砂防堰堤工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考		
脱型	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる	施工前	型枠・支保工の取外しの時期及び順序について、設計図書に定められていない場合には、配合、強度管理、打設条件等を考慮して、取外しの時期及び順序の計画を施工計画書に記載していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による
		脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取外していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート強度の判定は、型枠内に打ち込んだコンクリートと同じ状態で養生した供試体の圧縮強度による
		型枠および支保工の取外しに必要なコンクリートの圧縮強度の参考値												
					部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)							
					厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの側面	3.5							
					薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内面	柱、壁、はりの側面	5.0							
			スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内面	14.0									
		脱型時	型枠の組立に使用した締付け材の穴及び壁つなぎの穴を、本体コンクリートと同等以上の品質を有するモルタル等で補修していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	コンクリート表面から2.5cmの間にあるボルト、棒鋼等の部分は注意が必要
		脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場で採取した供試体と同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【砂防編】斜面对策工(地すべり対策工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						備 考				
				日付	日付	日付	日付	日付	日付					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	打設前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
法面工 抑止アンカー工	アンカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる	施工時	材料を保管する場合は、保管場所を水平で平らな所を選び、地表面と接しないように角材等を敷き、降雨にあたらぬようにシート等で覆い、湿気、水に対する配慮を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	削孔にあたり、アンカー定着部の位置が設計図書に示された位置に達したことを、削孔延長、削孔土砂等により確認するとともに、確認結果を監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	削孔が終了した場合は、原則として孔内を清水により十分洗浄し、スライム等を除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	注入されたグラウトが設計図書に示された強度に達した後、設計図書に示された残存引張り力が得られるよう初期緊張力を与えていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
地下水排除工	ボーリング等の施工が適切であることが確認できる	施工時	せん孔中、多量の湧水があった場合、又は予定深度まで掘進した後においても排水の目的を達しない場合には、速やかに監督職員に報告し、設計図書に関して指示を受けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	せん孔中、断層、亀裂により湧水等に変化を認めた場合、速やかに監督職員に報告し、設計図書に関して指示を受けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	集水井の掘削が予定深度まで掘削しない前に湧水があった場合、または予定深度まで掘削した後においても湧水がない場合には、速やかに監督職員に報告し、設計図書に関して指示を受けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【砂防編】斜面对策工(地すべり対策工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
地下水排除工	集排水ボーリング工の施工が適切であることが確認できる	施工時	保孔管は削孔全長に挿入し、設計図書に指定するものを除き硬質塩化ビニール管としていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	保孔管のストレナー加工は設計図書どおりであることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	集排水ボーリング工の方向及び角度が適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる	施工時	方向及び角度が適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	集水井工の施工が適切であることが確認できる	施工時	集水井の設置位置及び深度について、現地の状況により設計図書に定めた設置位置及び深度に支障のある場合は、設計図書に関して監督職員と協議していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
抑止杭工	施工計画書に記載していることが確認できる	施工前	杭の施工順序について施工計画書に記載していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	既製杭の施工が適切であることが確認できる	施工時	あらかじめ杭の打ち止め管理方法(ペン書き法による貫入量、リバウンドの測定あるいは杭頭計測法による動的貫入抵抗の測定など)等を定めて施工計画書に記載し、施工にあたり施工記録を整備および保管し、監督職員の請求があった場合は遅滞なく提示するとともに、検査時まで監督職員へ提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	既製杭工の杭頭処理に際して、杭本体を損傷させないように行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	中掘杭工法で既製杭工を施工する場合には、掘削および沈設中は土質性状の変化や杭の沈設状況などを観察し、杭先端部および杭周辺地盤を乱さないように沈設していることが確認できる。また、先端処理については、試験杭等の打ち止め条件に基づいて最終打ち止め管理を適正に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鋼管杭およびH鋼杭の現場継手については、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査職員名	印

【砂防編】斜面对策工(地すべり対策工事)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日付	チェック	日付	チェック	日付	チェック					
抑止杭工		施工時	孔底が設計図書に示す支持地盤に達したことを、掘削深度、掘削土砂、地質柱状図などにより確認し、その資料を整備および保管し、監督職員の請求があった場合は遅滞なく提示するとともに、検査時まで監督職員へ提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリート打設にあたっては、打込み量および打込み高を常に計測していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	深礎工において鉄筋を組み立てる場合は、曲がりやよじれが生じないように土留材に固定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鉄筋かごの組立てにあたり、コンクリート打込みの際に鉄筋が動かないように堅固なものとしていることが確認できる。また、山留め材を取り外す場合はあらかじめ主鉄筋の間隔、かぶりに十分な配慮がなされていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	土留め材と地山との間に生じた空隙には、全長にわたって裏込注入を行っていることが確認できる。なお、裏込注入材料が設計図書に示されていない場合には監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工時	ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	施工時	ライナープレートの組立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【共通編】法面工－(種子吹付工－客土吹付工－植生基材吹付工)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考		
				1	2	3	4	5	6				
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。 使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工前	使用する材料の種類、品質及び配合について設計図書に示された材料、配合となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工前	工事実施の配合決定にあたっては、発芽率を考慮の上で決定し、監督職員の承諾を得たものとなっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
基面処理工	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。 施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。 盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。 雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。 土壌試験の結果を施工に反映していることが確認できる。	施工時	盛土面に施工する場合は、盛土表面を締固め、平滑に仕上げていることが確認できる。掘削面に施工する場合は、切りすぎないように平滑に仕上げ、切りすぎた場合は、粘性土を使用し良く締固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	緩んだ転石、岩塊等は基面の安定のために除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	植生基材吹付の施工にあたり、吹付け面の浮石その他堆積物、付着の害となるものが除去されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	盛土部法面整形の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないように締固めを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	種子散布吹付工及び客土吹付工の施工にあたっては、種子散布に着手する前に、法面の土壌硬度試験及び土壌試験(PH)を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】法面工－(種子吹付工－客土吹付工－植生基材吹付工)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考					
ラス張り工	所定の位置にしっかりと固定されていることが確認できる。	施工時	設計図書に示す仕上がり面からの間隔を確保し、かつ吹付け等により移動しないように、法面に固定していることが確認できる。また、金網の継手のかさね巾は、10cm以上重ねていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	施工時期が設計図書に示された施工時期となっていることが確認できる。(施工時期が示されていない場合には、乾燥期を避けて施工されているか。やむを得ず乾燥期に施工する場合は、施工後も継続した散水養生を行っている。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
植生基材吹付	吹付け厚さが均等であることが確認できる。	施工時	吹付け厚さが均等になるように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ネットなどの境界に隙間が生じていないことが確認できる。	施工時	植生シート、植生マットの施工については、シート、マットの境界に隙間が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。	施工時	植生シート、植生マットの施工については、シート、マットが自重により破損しないように、ネットが取り付けられていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	吹付けの施工完了後は、発芽または枯死予防のため保護養生を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けの施工完了後は、発芽または枯死予防のため保護養生を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】法面工(コンクリート吹付工-モルタル吹付工)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリート及びモルタルの配合が、設計図書に示された配合となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
基面処理工	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。	施工時	盛土面に施工する場合は、盛土表面を締め、平滑に仕上げていることが確認できる。掘削面に施工する場合は、切りすぎないように平滑に仕上げ、切りすぎた場合は、粘性土を使用し良く締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。	施工時	緩んだ転石、岩塊等は基面の安定のために除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起らないよう締固めを十分行っていることが確認できる。	施工時	吹付工の施工にあたり、吹付け面が岩盤の場合には、ごみ、泥土、浮石等の付着に害となるものが除去されていることが確認できる。また、吹付け面が土砂の場合は、吹付け圧により土砂が散乱しないように、打ち固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	雨水による崩壊が起らないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	盛土部法面整形の施工にあたり、法面の崩壊が起らないように締固めを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	吸水性の吹付面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。	施工時	雨水による崩壊が起らないように、排水対策を実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	吸水性の吹付面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。	施工時	吹付面が吸水性の場合は、事前に吸水させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【共通編】法面工（コンクリート吹付工ーモルタル吹付工）

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
ラス張り工	金網の重ね幅が、10cm以上確保されていることが確認できる。	施工時	設計図書に示す仕上がり面からの間隔を確保し、かつ吹付け等により移動しないように、法面に固定していることが確認できる。また、金網の継手の重ね巾は、10cm以上重ねていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	金網に破損が生じていないことが確認できる。	施工時	金網に破損が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
吹付	吹付け厚さが均等であることが確認できる。	施工時	吹付け厚さが均等になるように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。	施工時	吹付けを2層以上に分けて行う場合には、層間に剥離が生じないよう施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けにあたっては、法面に直角に吹き付け、法面の上部より順次下部へ吹付け、跳ね返り材料の上に吹付けないように施工されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	吹付けに際しては、他の構造物を汚さないよう施工されていることが確認できる。また、跳ね返り材料は、すみやかに取り除いて不良箇所が生じないように施工されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	法肩の吹付けにあたり、地山に巻き込んで施工していることが確認できる。	施工時	法肩の吹付けにあたっては、雨水などが浸透しないように地山に巻き込んで施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	施工時	当該現場で採取した供試体と圧縮強度試験時の供試体とが同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】法面工ー(現場打法枠工(プレキャスト法枠工含む))

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリート及びモルタルの配合が、設計図書に示された配合となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
基面処理工	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。	施工時	盛土面に施工する場合は、盛土表面を締め、平滑に仕上げていることが確認できる。掘削面に施工する場合は、切りすぎないように平滑に仕上げ、切りすぎた場合は、粘性土を使用し良く締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	法枠工を施工するにあたり、法面を平坦に仕上げた後に部材を法面に定着し、すべらないように積み上げていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工に際して、品質に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。	施工時	緩んだ転石、岩塊等は基面の安定のために除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	法枠工の基面処理の施工にあたり、緩んだ転石、岩塊等が基面の安定のために除去されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	盛土の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないよう締固めを十分行っていることが確認できる。	施工時	盛土部法面整形の施工にあたり、法面の崩壊が起こらないように締固めを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	施工時	雨水による崩壊が起こらないように、排水対策を実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	吸水性の吹付面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。	施工時	吹付面が吸水性の場合は、事前に吸水させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】法面工（現場打法枠工（プレキャスト法枠工含む））

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
アンカー工	アンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。	施工時	アンカーの削孔に際して、設計図書に示された位置、削孔径、長さおよび方向となっており、周辺の地盤を乱さないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート打設(吹付)	吹付け厚さが均等であることが確認できる。	施工時	吹付け厚さが均等になるように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	層間に剥離がないことが確認できる。	施工時	吹付けを2層以上に分けて行う場合には、層間に剥離が生じないように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。	施工時	吹付けにあたっては、法面に直角に吹き付けるものとし、跳ね返り材料の上に吹付けないように施工されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	吹付けに際しては、他の構造物を汚さないよう施工されていることが確認できる。また、跳ね返り材料は、すみやかに取り除いて不良箇所が生じないように施工されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	現場養生が、設計図書に仕様を満足するように実施されていることが確認できる。	施工時	現場養生が、設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	枠内に空隙が無いことが確認できる。	施工時	枠内に玉石などを詰める(コンクリート板等をはる)場合は、クラッシュラン(モルタル)等で充填していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	施工時	当該現場で採取した供試体と圧縮強度試験時の供試体とが同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【共通編】基礎工-既製杭工-(既製コンクリート杭・鋼管杭・H鋼杭)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	杭の形状寸法等は規定を満足していることが確認できる。	施工前	杭の形状寸法は設計図書を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	打込み位置が設計図書を満足していることが確認できる。	施工前	杭芯の位置は設計図書どおりであり、逃げ杭等が設置されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
杭受け入れ	搬入された杭は所要の規格を満足していることが確認できる。	施工前	搬入された杭について、品質証明書等で規格を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。	施工前	杭の運搬、保管にあたっては、杭の表面、フランジ縁端部、継手、開先部分などに損傷を与えず、また、杭の断面特性を考慮して大きなたわみ、変形を生じないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】基礎工-既製杭工-(既製コンクリート杭・鋼管杭・H鋼杭)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
鋼管杭 打込工	既製杭の打止め管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。	施工時	あらかじめ杭の打止め管理方法(ペン書き法による貫入量、リバウンドの測定あるいは杭頭計測法による動的貫入抵抗の測定など)等を定め施工計画書に記入し、施工にあたり施工記録を整備保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	打込み杭の場合
		施工時	掘削及び沈設中は土質性状の変化や杭の沈設状況などを観察し、杭先端部及び杭周辺地盤を乱さないように、沈設しているとともに、先端処理については、試験杭等を打ち止め条件に基づいて、最終打ち止め管理を適正に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工時	試験杭施工を実施していることが確認できる。	設計図書に示す工事目的物の基礎杭の一部として使用できるように最初の一本を試験杭として施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工時	水平度、鉛直度等が設計図書を満足していることが確認できる。	常に鉛直を保持し、所定の深度まで確実に掘削していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	2方向からトランシットもしくは下げ振り等で確認する。
	施工時	支持地盤まで達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。	杭先端が設計図書に示された支持層に達したことが確認ができる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【共通編】基礎工-既製杭工-(既製コンクリート杭・鋼管杭・H鋼杭)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄					下段:コメント	備考																
杭継ぎ	溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	現場継手については、アーク溶接継手とし、現場溶接に際しては溶接工の選定及び溶接の管理、指導、検査を行う溶接施工管理技術者を常駐させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□											
		施工時	溶接に従事する溶接工の資格証明書が確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□											
		※ 鋼管杭及びH鋼杭の溶接は、JIS Z 3801(手溶接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験のうち、その作業に該当する試験(または同等以上の検定試験)に合格した者かつ現場溶接の施工経験が6ヵ月以上の者に行わせている。ただし、半自動溶接を行う場合は、JIS Z 3841(半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験の種類のうち、その作業に該当する試験(またはこれと同等以上の検定試験)に合格した者に行わせている。																								
		施工時	溶接部の表面のさび、ごみ、泥土等の有害な付着物をワイヤブラシ等でみがいて清掃し、乾燥させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□									
		施工時	上杭の建込みにあたっては、上下軸が一致するように行い、下表の許容値を満足するように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□									
		現場円周溶接部の目違いの許容値																								
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">外 径</th> <th style="width: 20%;">許容値</th> <th style="width: 60%;">摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>700mm未満</td> <td>2mm以下</td> <td>上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を$2\text{mm} \times \pi$以下とする。</td> </tr> <tr> <td>700mm以上1,016mm以下</td> <td>3mm以下</td> <td>上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を$3\text{mm} \times \pi$以下とする。</td> </tr> <tr> <td>1,016mmを越え1,524mm以下</td> <td>4mm以下</td> <td>上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を$4\text{mm} \times \pi$以下とする。</td> </tr> </tbody> </table>															外 径	許容値	摘 要	700mm未満	2mm以下	上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	700mm以上1,016mm以下	3mm以下	上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。	1,016mmを越え1,524mm以下
外 径	許容値	摘 要																								
700mm未満	2mm以下	上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を $2\text{mm} \times \pi$ 以下とする。																								
700mm以上1,016mm以下	3mm以下	上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を $3\text{mm} \times \pi$ 以下とする。																								
1,016mmを越え1,524mm以下	4mm以下	上杭と下杭の外周長の差で表し、その差を $4\text{mm} \times \pi$ 以下とする。																								
施工時	溶接完了後、溶接箇所について、欠陥の有無について確認を行い、ある場合は適切な補修を行っていることが確認ができる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□											

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】基礎工ー既製杭工ー(既製コンクリート杭・鋼管杭・H鋼杭)

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備 考			
				1	2	3	4	5	6					
杭先端処理	セメントミルク攪拌方式噴出	施工時	セメントミルクの配合は設計図書を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	セメントミルクの品質管理を実施しており、規格を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
杭頭処理	杭頭処理において、杭本体を損傷していないのが確認できる。	施工時	杭頭処理に際して、杭の本体を損傷させないよう施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【共通編】基礎工—場所打ち杭工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考	
				/	□	/	□	/	□			/
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	削孔する位置について設計図書を満足していることが確認できる。	施工前	杭芯位置は設計図書どおりであり、逃げ杭が設置されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
掘削工	試験杭施工を実施していることが確認できる。	施工時	設計図書に示す工事目的物の基礎杭の一部として使用できるように最初の一本を試験杭として施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。	施工時	杭長決定の管理方法等を定め施工計画書に記載し、施工にあたり施工記録を整備及び保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。 (リバース工法、アースドリル工法、ダウンザホールハンマー工法、大口径ボーリングマシン工法が対象)	施工時	掘削中には孔壁の崩壊を生じないように、孔内水位を外水位より低下させていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	(参考) 孔内水位を事前に確認し、安定液水位を常に2m以上にする。
		施工時	安定液濃度及び比重の状況について管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	(参考) マッドバランス、ファンネル粘土計、濾過試験器、pHメーターによる計測管理
	水平度及び鉛直度等が設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	常に鉛直を保持し、所定の深度まで確実に掘削していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	2方向からトランシットもしくは下げ振り等で確認する。
	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。	施工時	場所打杭工の施工にあたり、設計図書に示した支持地盤に達したことを、掘削深さ、掘削土砂、地質柱状図及びサンプルなどにより確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】基礎工—場所打ち杭工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
スライム 処理工	スライムの除去を確実にしていることが確認できる。	施工時	コンクリート打込みに先立ち孔底沈殿物(スライム)を除去していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
鉄筋籠 組み立て	配筋、スペーサの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鉄筋かごには、設計図書に示されたかぶり高が確保できるように、スペーサーを同一深さ位置に4箇所以上、深さ方向5m間隔以下で取付けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
鉄筋籠 組み立て 建て込み	配筋、スペーサの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鉄筋かごの継手は原則重ね継ぎ手とし、また、重ね継手を溶接する場合、母材の断面欠損が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう十分堅固に組み立てていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート打設	配筋、スペーサの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	場所打ち杭工のコンクリート打込みにあたっては、トレミー管を用いたブランジャー方式によるものとし、打込み量及び打込み高を常に計測していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	連続してコンクリートを打込み、レイタンス部分を除いて品質不良のコンクリート部分を見込んで設計図書に示す打上り面より孔内水を使用しない場合で50cm以上、孔内水を使用する場合で80cm以上高く打込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	オールケーシング工法の施工におけるケーシングチューブの引抜きにあたり、鉄筋かごの共上りを起こさないようにしており、引抜き最終時を除き、ケーシングチューブ下端をコンクリート打設面より2m以上コンクリート内に挿入していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	施工時	コンクリートの受け入れ時に、必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	施工時	場所打ち杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	施工時	杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】基礎工－深礎工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備 考				
				日付	チェック	日付	チェック	日付	チェック			日付	チェック		
準備工	施工計画と施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
		施工前		削孔する位置について設計図書を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前			杭芯位置は設計図書どおりであり、逃げ杭が設置されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工前	コンクリートについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/		□	/	□	/	□	/	□	/	□	
掘削工	孔内の排水を行っていることが確認できる。	施工時	常に孔内の排水を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
		施工時		ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時			場所打杭工の施工にあたり、設計図書に示した支持地盤に達したことを、掘削深さ、掘削土砂、地質柱状図及びサンプルなどにより確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。														
鉄筋組み立て	配筋、スペーサの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鉄筋を組立てる場合には、曲がりやよじれが生じないように、土留材に固定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
		施工時		鉄筋かごの継手は重ね継ぎ手となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時			鉄筋かごの組立てにあたり、コンクリート打込みの際に鉄筋が動かないように堅固なものとなっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【共通編】基礎工－深礎工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				／	□	／	□	／	□			／	□	
コンクリート打設	配筋、スペーサの配置及びコンクリートの打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	打込み量及び打込み高を常に計測していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
	コンクリートの受け入れ時に、必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	コンクリートの受け入れ検査は、適切に行われ規格値を満足していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
	コンクリート打設前に打ち継ぎ目の処理を適切に行っていることが確認できる。	施工時	硬化したコンクリートの表面のレイタンス、緩んだ骨材粒、品質の悪いコンクリート、雑物などを取り除き吸水させていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
裏込注入工	裏込注入材の配合は設計図書を満足していることが確認できる。	施工時	裏込注入材の配合は設計図書を満足していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
	裏込材注入の圧力が施工記録により確認できる。	施工時	グラウトの注入方法については、施工計画書に記載し、施工にあたっては施工記録を整備保管していることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		施工時	裏込材注入圧力は、低圧(0.1N/mm ² 程度)となっていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	
		施工時	土留め材と地山との間に生じた空隙部には、全長にわたって裏込注入を行っていることが確認できる。	／	□	／	□	／	□	／	□	／	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
---------	---

品質検査員名	印
--------	---

【共通編】地盤改良工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定を行っていることが確認できる。	施工前	攪拌及び注入する材料について配合試験と一軸圧縮試験を実施するものとし、目標強度が確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	削孔する位置が設計図書を満足していることが確認できる。	施工前	杭芯の位置は設計図書どおりであり、逃げ杭等が設置されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	締固め改良工(サンドコンパクション)、固結工の場合
	使用機械は適切であることが確認できる。	施工前	使用機械は、施工計画書どおりであり、適切なものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	改良機本体および改良材供給機の性能はキャリブレーションを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	攪拌翼の径は目的とする杭径のとおりであり、また、貫入鉛直精度に支障を来すような変形や折れ曲がり等が無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【共通編】地盤改良工

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						備 考					
				日付	チェック	日付	チェック	日付	チェック						
改良体 造成工	使用材料が適切であることが確認できる。	施工時	使用材料が適切であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の様を満足していることが確認できる。	施工時	改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	セメントミルクは比重、スラリー噴出量を、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。	施工時	セメントミルクは比重、スラリー噴出量を、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。	施工時	施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	薬液 注入 工	技術的知識と経験を有する現場責任者を選任していることが確認できる。	施工時	事前に経歴書により確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		着手前に、工法及び材料について確認ができる。	施工時	着手前に、下記の確認ができる。 (1)工法関係 ①注入圧 ②注入速度 ③注入順序 ④ステップ長 (2)材料関係 ①材料(購入、流通経路等を含む) ②ゲルタイム③配合	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						備考		
				/	□	/	□	/	□		/	□
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	架設準備として下部工の検測を行っていることが確認できる。	施工前	下部工の橋座高及び支保間距離の検測を行いその結果を監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	支保工設置や架設設備等の支持地盤の地耐力が確認できる。	施工前	上部工の荷重に対しクレーン架設又は支保工を設置する地盤の地耐力を確認していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
	現場製作のコンクリート打設計画書を作成していることが確認できる。	施工前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
準備工 (コンクリート材料)	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。	打設前	JISマーク表示認証工場で製造されJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)により粗骨材の最大寸法、空気量、スランプ、水セメント比および呼び強度等が指定されるレディーミクストコンクリートは配合に臨場し、製造会社の材料試験成績表、配合表を保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表を監督職員に提出し、承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(C _L)が、許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	
プレキャストセグメント	規格・寸法および製品の状態が良好であることが確認できる。	受け入れ時	プレキャストセグメントの規格・寸法は設計図書のとおりであり、ひび割れ等が生じていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
支承工	沓座面の処理が適切であることが確認できる。	施工前	沓座面はチッピングを行い、浮き骨材やゴミなどを取り除いていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	沓座モルタルの材料、施工が適切であることが確認できる。	施工前	沓座モルタルは無収縮モルタルを使用し、確実に充填されるように注意して施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	モルタル打設前に沓座面を湿潤状態にして施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
桁製作工 (鉄筋工)	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。	施工時	加工工場または現場納入時の鉄筋や鋼材について、その外観及び品質規格証明書(ミルシート)等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鉄筋その他鋼材の引張強度及び曲げ強度が鋼材検査証明書(ミルシート)・品質証明書等で確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋の貯蔵が適切に行われていることが確認できる。	施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する場合は、現地試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認したうえで施工している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鉄筋の重ね継手を行う場合は、設計図書に示す長さを重ね合わせて、直径 0.8mm以上のなまし鉄線で数箇所緊結していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に明示した場合を除き、継手の配置が同一断面に集中していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						備考			
桁製作工 (鉄筋工)	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、コンクリート打設中に動かないよう堅固に組み立てていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	鉄筋の交点の要所を、直径 0.8mm以上のなまし鉄線、またはクリップで緊結し、鉄筋が移動しないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。	施工前	ガス圧接に従事する技術者が、該当する試験の技量を有することを確認し、資格証明書の写しを監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	圧接工は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に定められた試験の種類のうち、その作業に該当する試験と同等の技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	自動ガス圧接装置を取り扱う者は、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒鋼)に規定する棒鋼を酸素・アセチレン炎により圧接する技量を有する技術者本人が行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き錆、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれが無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	スペーサーを、構造物の側面については1m2あたり2個以上、構造物の底面については1m2あたり4個以上を適切に配置しており、かつ、適切に固定し鉄筋の所定のかぶりを確保していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	スペーサーについてはコンクリート製あるいはモルタル製で本体コンクリートと同等以上の品質を有するものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考																	
桁製作工 (シース・型枠)	シース・型枠の施工が適切に行われていることが確認できる。	施工時	シースの継手部をセメントペーストの漏れない構造で、コンクリート打設時も圧倒に耐える強度を有しており、また、継手箇所が少なくなるようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□													
		施工時	桁の荷重を直接受けている部分の型枠の取りはずしにあたっては、プレストレス導入後に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□													
		施工前	移動型枠の施工については、型枠の移動が円滑に行われるための装置を設置していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□													
	施工時	PC鋼材の設置、保護が適切に行われていることが確認できる。	PC鋼材またはシースがコンクリート打設時の振動、締固めによって、その位置及び方向が移動しないように組立てているか。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□													
桁製作工 (プレベーム桁)	プレベーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	鋼桁のプレフレクション管理を、荷重計の示度及び鋼桁のたわみ量によって行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□													
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:10%;">測 定 点</th> <th style="width:25%;">測 定 方 法</th> <th style="width:10%;">単 位</th> <th style="width:35%;">規 格 値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>荷重計の示度</td> <td></td> <td>マノメーターの読み</td> <td>t</td> <td>±5%</td> </tr> <tr> <td>鋼桁のたわみ量</td> <td>支間中央</td> <td>レベル及びスケール</td> <td>mm</td> <td>-1～±3mm</td> </tr> </tbody> </table>														項 目	測 定 点	測 定 方 法	単 位	規 格 値	荷重計の示度		マノメーターの読み	t	±5%	鋼桁のたわみ量	支間中央	レベル及びスケール
項 目	測 定 点	測 定 方 法	単 位	規 格 値																								
荷重計の示度		マノメーターの読み	t	±5%																								
鋼桁のたわみ量	支間中央	レベル及びスケール	mm	-1～±3mm																								

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄	下段:コメント	備考	
1 桁製作工 (コンクリート)	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308(レディミクストコンクリート)により実施しているか。生産者等に検査のための試験を代行させる場合はその試験に臨場していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	
		レディミクストコンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われ、規格値を満足していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	/ □
		試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値			
		スランプ試験 JIS A 1101 ・ 荷卸し時 ・ 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	スランプ5cm以上8cm未満:許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下:許容差±2.5cm			
空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 ・ 荷卸し時 ・ 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ 毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	±1.5%(許容差)					
塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後に来たがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・ 小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。 ・ またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・ 骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCOE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・ 用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	原則0.3kg/m ³ 以下				
単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工して 2) 測定した単位水量が、配合設計±15を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。				
コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	・ 荷卸し時 ・ 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所から採取し、1回につき6本(σ7~σ3本、σ28~σ3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3~σ3本についても採取する)	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3回の供試体の試験値の平均値)				
※コンクリートの圧縮強度試験については、試験基準・適用に定められた頻度に応じた供試体採取を行っているかを確認する。							
打設前		【暑中コンクリート】 日平均気温が25°Cを超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、また、コンクリート材料の温度を、品質が確保できる範囲内で使用していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考				
 桁製作工 (コンクリート)	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締め固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	練り混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートの打込みを日平均気温が4℃を超え25℃以下の範囲に予想されるときに実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートの打設作業に際しては、あらかじめ打設計画書を作成し、適切な高さに設定してこれに基づき打設作業を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	シュート、ポンプ配管、バケツ、ホッパー等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、打込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸法、気象条件等を考慮して、5～20℃の範囲に保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃を超える場合は2.0時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考		
				日付	チェック	日付	コメント	日付	コメント	日付	コメント			
桁製作工 (コンクリート)	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締め固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	施工時	許容打ち重ね時間間隔が、外気温が25℃以下の場合は2.5時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、パイプレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5~15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	コンクリートを2層以上に分けて打設する場合、パイプレータを下層のコンクリート中に10cm程度挿入し、上層と下層が一体となるように入念に締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
桁製作工 (緊張管理)	PC鋼材の設置、保護が適切に行われていることが確認できる。	施工時	定着具の支圧面は、緊張材と垂直になるように取り付けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ねじ部分は緊張完了までの期間、さびたり、損傷を受けたりしないように保護していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	プレストレス時のコンクリート強度が設計図書の様を満足していることが確認できる。	施工時	プレストレス時のコンクリートの圧縮強度が、プレストレス直後にコンクリートに生じる最大圧縮応力度の1.7倍以上であることが試験成績表及び写真で確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレストレス時の定着部付近のコンクリートが、定着により生じる支圧応力度に耐える強度以上であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考		
桁製作工 (緊張管理)	使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。	施工時	標準ゲージを用いて、緊張作業に使用するポンプの圧力計のキャリブレーションが行われていることが、管理資料、写真で確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレストレッシングに先立ち ① 引張装置のキャリブレーションを、ポンプ納入時、緊張管理上で異常が認められた時に実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	緊張ポンプのキャリブレーションは、結果記録表と写真で、実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	プレストレッシングに先立ち、引張試験のキャリブレーションの試験に基づき、緊張管理計画を提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	緊張管理計画書に従ってプレストレスを導入するように管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレストレッシングに先立ち、② PC鋼材のプレストレッシングの管理に用いる摩擦係数及びPC鋼材の見かけのヤング係数を求める試験等調整及び試験を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考				
				1	2	3	4	1	2	3	4					
桁製作工 (緊張管理)	PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	緊張管理計画で示された荷重計の示度とPC鋼材の抜き出し量の測定値との関係が、許容範囲を越える場合には、原因を調査し適切な措置を講じていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	グラウトの施工は、ダクト内の残留水等がグラウトの品質に影響を及ぼさないことを確認し、グラウト注入時の圧力が強すぎないように管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレストレッシングの施工については、各桁ともできるだけ同一強度の時期に行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	緊張装置の使用については、PC鋼材の定着部及びコンクリートに有害な影響を与えるものを使用していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	PCグラウトの品質が適切であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	寒中におけるグラウトの施工については、グラウト温度は注入後少なくとも5日間、5℃以上に保ち、凍結することのないように行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	暑中におけるグラウトの施工については、グラウトの温度上昇、過早な硬化などがないようにしており、注入時のグラウトの温度は35℃を越えていないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	連続ケーブルの曲げ上げ頂部付近など、ダクト内に空隙が生じないように空気孔を設けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考				
桁製作工 (養生)	主桁の仮置き方法が適切であることが確認できる。	施工時	主桁の仮置きを行う場合は、仮置きした主桁に過大な応力が生じないように支持するとともに、横倒れ防止処置を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	コンクリートがある程度硬化したら露出面を養生用マット、ぬらした布等でこれを覆うか、または散水、灌水を行い、少なくとも下表に示す期間、常に湿潤状態を保っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
				日平均気温	普通ポルトランドセメント	混合セメントB種	早強ポルトランドセメント									
				15℃以上	5日	7日	3日									
				10℃以上	7日	9日	4日									
				5℃以上	9日	12日	5日									
				施工時	せき板が乾燥するおそれのある場合は、これに散水し湿潤状態にしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
				施工時	【暑中コンクリート】 特に気温が高く湿度が低い場合は、直接日光・風雨を防ぐために必要な処置を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
				施工時	【寒中コンクリート】 打ち込まれたコンクリートは露出面が外気に長時間さらされることのないように打設後直ちにシート等で養生していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考																																																					
桁製作工 (脱型)	コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しをおこなっていることが確認できる。	脱型時	コンクリートがその自重及び施工中に加わる荷重を受けるのに必要な強度に達するまで、型枠・支保を取外していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																																				
		<p align="center">型枠および支保工の取外しに必要なコンクリートの圧縮強度の参考値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材面の種類</th> <th>例</th> <th>コンクリートの圧縮強度 (N/mm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面</td> <td>フーチングの側面</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面</td> <td>柱、壁、はりの側面</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面</td> <td>スラブ、はりの底面、アーチの内側面</td> <td>14.0</td> </tr> </tbody> </table>													部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)	厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの側面	3.5	薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面	柱、壁、はりの側面	5.0	スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内側面	14.0																																							
		部材面の種類	例	コンクリートの圧縮強度 (N/mm ²)																																																													
		厚い部材の鉛直に近い面、傾いた上面、小さいアーチの外側面	フーチングの側面	3.5																																																													
薄い部材の鉛直に近い面、45°より急な傾きの下面、小さいアーチの内側面	柱、壁、はりの側面	5.0																																																															
スラブおよびはり、45°より緩い傾きの下面	スラブ、はりの底面、アーチの内側面	14.0																																																															
脱型時	型枠・支保工の取り外し前に、構造物と同じ状態で養生したコンクリート供試体の圧縮強度を確認し、取り外しを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																																				
脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場で採取した供試体と同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																																				
プレキャストセグメント 主桁組立工	プレキャストブロックの損傷対策が適切であることが確認できる。	施工前	ブロック取卸しについては、特にブロック接合面の損傷に対して十分な保護をしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□																																																				
	プレキャストブロックの接合に用いる接着剤の材質、品質管理は適切であることが確認できる。	施工時	<p>プレキャストブロックの接合に用いる接着剤の使用にあたり材質がエポキシ樹脂系接着剤で強度、耐久性及び水密性がブロック同等以上で、かつ、下表に示す条件を満足するものを使用していることが確認できる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品質項目</th> <th>単位</th> <th>品質規格</th> <th>試験温度</th> <th>養生条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未硬化の接着剤</td> <td>-</td> <td>有害と認められる異物の混入がなく、材料分離が生じていないこと</td> <td>20±2°C</td> <td>毒軟用</td> </tr> <tr> <td>粘度</td> <td>mPa·s</td> <td>1×104~1×105</td> <td>30±2°C</td> <td>夏用</td> </tr> <tr> <td>可硬時間</td> <td>時間</td> <td>2以上</td> <td>冬用</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>だれ層小厚さ</td> <td>mm</td> <td>0.3以上</td> <td>10±2°C</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>硬化した接着剤</td> <td>-</td> <td>1.1~1.7</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>引張強さ</td> <td>N/mm²</td> <td>12.5以上</td> <td>20±2°C</td> <td>7日間</td> </tr> <tr> <td>圧縮強さ</td> <td>N/mm²</td> <td>50.0以上</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>引張せん断接着強さ</td> <td>N/mm²</td> <td>12.5以上</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>接着強さ</td> <td>N/mm²</td> <td>6.0以上</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	品質項目	単位	品質規格	試験温度	養生条件	未硬化の接着剤	-	有害と認められる異物の混入がなく、材料分離が生じていないこと	20±2°C	毒軟用	粘度	mPa·s	1×104~1×105	30±2°C	夏用	可硬時間	時間	2以上	冬用	-	だれ層小厚さ	mm	0.3以上	10±2°C	-	硬化した接着剤	-	1.1~1.7	-	-	引張強さ	N/mm ²	12.5以上	20±2°C	7日間	圧縮強さ	N/mm ²	50.0以上	-	-	引張せん断接着強さ	N/mm ²	12.5以上	-	-	接着強さ	N/mm ²	6.0以上	-	-	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
品質項目	単位	品質規格	試験温度	養生条件																																																													
未硬化の接着剤	-	有害と認められる異物の混入がなく、材料分離が生じていないこと	20±2°C	毒軟用																																																													
粘度	mPa·s	1×104~1×105	30±2°C	夏用																																																													
可硬時間	時間	2以上	冬用	-																																																													
だれ層小厚さ	mm	0.3以上	10±2°C	-																																																													
硬化した接着剤	-	1.1~1.7	-	-																																																													
引張強さ	N/mm ²	12.5以上	20±2°C	7日間																																																													
圧縮強さ	N/mm ²	50.0以上	-	-																																																													
引張せん断接着強さ	N/mm ²	12.5以上	-	-																																																													
接着強さ	N/mm ²	6.0以上	-	-																																																													

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【コンクリート橋上部工事(PC及びRCを対象)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄				下段:コメント				備考				
				年	月	日	結果	内容	内容	内容	内容					
プレキャストセグメント主桁組立工	プレキャストブロックの接合に用いる接着剤の材質、品質管理は適切であることが確認できる。	施工時	エポキシ樹脂系接着剤を使用する場合は、室内で密封し、製造後6ヵ月以上経過したものは使用していないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
		施工時	接着剤の試験方法としては JSCE-H101-2001 プレキャストコンクリート用エポキシ樹脂系接着剤(橋げた用)品質規格(案)(土木学会コンクリート標準示方書・規準編)により行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	プレキャストブロックの接合施工が適切であることが確認できる。	施工時	プレキャストブロックの接合面のレイタンス、ごみ、油などを取り除いていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレキャストブロックの接合にあたって、設計図書に示す品質が得られるように施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	プレキャストブロックを接合する場合に、ブロックの位置、形状及びダクトが一致するようにブロックを設置しており、プレストレスング中に、くい違いやねじれが生じないようにしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	PCグラウトの注入時期が適切であることが確認できる。	施工時	接着剤の硬化を確認した後にグラウトを行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
架設工 横組工	架設方法は適切であることが確認できる。	施工時	鋼橋上部工チェックシートにおける『鋼橋架設』のプロセス確認の結果に問題ないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
床版工	コンクリート床版の施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	鋼橋上部工チェックシートにおける『床版工』のプロセス確認の結果に問題ないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
橋梁付属物工	橋梁用高欄工の施工は適切であることが確認できる。	施工時	橋梁上部工の支間の支保工をゆるめた後で、施工を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段: 日付・チェック欄						下段: コメント	備考			
				日	付	○	□	日	付			○	□	
準備工	施工計画・施工方法は適切であることが確認できる。	施工前	施工計画書と現場条件に相違がないことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	基準点の設置および掘削進行に伴う測点の設置は適切であることが確認できる。	施工前	工事着手前に測量を行い、両坑口間の基準点との相互関係を確認の上、坑口付近に中心線及び施工面の基準となる基準点を設置していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	測点をトンネルの掘削進行に伴って工事中に移動しないように坑内に測点を設置しており、また、掘削進行に伴い坑外の基準点から検測を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ズリの処分計画は適切であることが確認できる。	施工時	トンネル掘削によって生じたズリを、設計図書または監督職員の指示に従い処理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
掘削	発破後の地山のゆるみを排除していることが確認できる。	施工時	爆破を行った後のトンネル掘削面のゆるんだ部分や浮石を除去して施工していることが確認できる。(コソク状況)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	所要の内空断面が確保されていることが確認できる。	施工時	設計図書に示された設計断面が確保されるまでトンネル掘削を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	インバートの掘削形状が適切であることが確認できる。	施工時	インバートの施工にあたり設計図書に示す掘削線を越えて掘りすぎないように注意して施工されていることが確認できる。(掘りすぎた場合には、インバートと同質のコンクリートで充てんしている)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
孔内観察・計測管理	計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。	施工時	設計図書による坑内観察調査等を行っており、計測は技術的知識、経験を有する現場責任者により行われていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
孔内観察・計測管理	計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。	施工時	計測記録を整備保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに検査時までに監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	「トンネル(NATM)計測要領(案)」に定められている計測Aを実施しており、その結果を管理し施工に反映していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	地山条件に応じて計測Bが必要と判断された場合は、設計図書に関して監督職員と協議し、計測が技術的知識、経験を有する現場責任者により行われていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	施工中の地質、湧水、その他の自然現象、支保工覆工の変状の有無を観察するとともに、その記録を整備していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	設計図書に定められた岩区分(支保工パターン含む)の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。	施工時	設計図書における岩区分(支保パターン含む)の境界を確認し、監督職員の確認を受けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	設計図書に示された岩の分類の境界が現地状況と一致しない場合は、監督職員に通知していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	岩区分の境界を確認できる資料を整備、保管していることが確認できる。(監督職員の請求があった場合は遅滞なく提示するとともに、検査時に提出)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	施工完了時にひび割れ発生状況の調査を実施し、展開図(ひび割れ幅0.2mm以上)を作成し、写真と合わせて調査結果を提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名: _____ 対象箇所: _____

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考					
支保工 材料受入	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。	受入時	加工工場または現場納入時の鉄筋や鋼材について、その外観及び品質規格証明書(ミルシート)等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□			
	吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種類、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	受入時	ロックボルトの種類、規格は、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。(ロックボルトの材質及び規格等について品質証明書等により確認できる。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		受入時	吹付コンクリートの配合は、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		受入時	施工に先立ち、吹付コンクリートの配合試験を行い、その資料により、監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	支保工鋼材の規格は設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	受入時	鋼製支保工に使用する鋼材の種類を、SS400材相当品以上のものとしており、鋼材の材質は、JIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)または、JIS G 3106(溶接構造用圧延鋼材)の規格のものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	受入時	金網工に使用する材料は、JIS G 3551(溶接金網)で150mm×150mm×径5mmの規格を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
防水材の規格が適切であることが確認できる。	受入時	防水工に使用する防水シートは、設計図書の規格を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		
	受入時	防水工に使用する透水性緩衝材は、設計図書の規格を満足していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□		

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				1	2	3	4	5	6					
支保工	支保工の設置状況が適切であることが確認できる。	施工時	設計図書に基づいた支保パターンで施工していることが確認できる。(地山条件により、これにより難しい場合は、設計図書に関して監督職員と協議した結果に基づき施工している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鋼製支保工を余吹付けコンクリート施工後すみやかに所定の位置に建て込み、一体化させ、地山を安定させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鋼製支保工の建て込み方法は適切であることが確認できる。	施工時	鋼製支保工を地山または吹付けコンクリートに密着させ巻厚が確保できるように建て込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	鋼製支保工の転倒を防止のため、設計図書に示されたつなぎ材を設け締付けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
金網設置	金網の継ぎ目を15cm以上重ね合わせて施工していることが確認できる。	施工時	金網を設置する場合は、吹付けコンクリート第1層の施工後に、吹付けコンクリートに定着するように配置し、吹付け作業によって移動、振動等が起らないよう固定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	金網の設置において、金網の継ぎ目は15cm(一目以上)以上重ね合わせていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
ロックボルト	ロックボルトの設置時期、設置方法が適切であることが確認できる。	施工時	吹付けコンクリート完了後、すみやかに掘進サイクル毎に削孔し、ボルト挿入前にくり粉が残らないように清掃しロックボルトを挿入していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	ロックボルトの定着長が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。	施工時	設計図書に示す定着長が得られるように、ロックボルトを施工していることが確認できる。(設計図書における岩区分・支保パターンを満足している)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ロックボルトの施工を、地山条件や穿孔の状態、湧水状況により、設計図書に示す定着長が得られない場合には、定着材料や定着方式等について監督職員と協議していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート

(期間: 年 月 日 ~ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
ロックボルト	地山との定着方法は適切であることが確認できる。	施工時	ロックボルトの定着後、ベアリングプレートが掘削面や吹付けコンクリート面に密着するようにナットで緊結していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ロックボルト定着方式は、全面接着方式とし、定着材は、ドライモルタルとしていることが確認できる。(地山の岩質・地質・穿孔の状態等からこれにより難しい場合は、定着方式・定着材について監督職員と設計図書に関して協議)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	ロックボルトの使用前に、有害な錆、油その他の異物が残らないように清掃してから使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
コンクリート (吹付) (覆工) (インパート)	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度、W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制対策等)が確認できる。 (吹付コンクリート) (覆工コンクリート) (インパートコンクリート)	施工前	打設計画書を作成し、打設時の気温・コンクリート温度管理計画、投入高さ、気温に適した打ち込み・打ち重ね時間、型枠・支保工の取り外し時期が明記されていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工前	JISマーク表示認証工場で製造されJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)により粗骨材の最大寸法、空気量、スランプ、水セメント比および呼び強度等が指定されるレディーミクストコンクリートは配合に臨場し、製造会社の材料試験成績表、配合表を保管していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	すでに使用実績のあるコンクリートを使用する場合は、品質管理データが確認できる他の公共工事の示方配合表を監督職員に提出し、承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	試験練りを行う場合、配合試験を行い、スランプ、空気量、塩化物のイオン量、圧縮強度、配合(単位水量及び水セメント比)等の所要の仕様を満足する示方配合表により監督職員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	水セメント比(W/C)が、鉄筋コンクリート55%以下、無筋コンクリート60%以下、コンクリート中の塩化物量(CL-)が、許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前		/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄	下段:コメント	備考																			
コンクリート (吹付) (覆工) (インパート)	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	受入時	コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5308(レディミクストコンクリート)により実施しているか。生産者等に検査のための試験を代行させる場合はその試験に臨場していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □																			
			コンクリートの受入れ検査は以下の項目について行われ、規格値を満足していることが確認できる。	/ □	/ □	/ □	/ □																		
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">試験項目・試験方法</th> <th style="width:30%;">試験基準・適用</th> <th style="width:40%;">規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スランプ試験 JIS A 1101</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> <tr> <td>空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> <tr> <td>塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上</td> <td> コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 </td> </tr> <tr> <td>単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について</td> <td> 1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m³/日以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100～150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。 </td> <td> 示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本とする。 </td> </tr> <tr> <td>コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡ごとに1回 なお、テストピースは打設場所にて採取し、1回につき6本(σ7…3本、σ28…3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3…3本についても採取する) </td> <td> 小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 </td> </tr> </tbody> </table>			試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値	スランプ試験 JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 	単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100～150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡ごとに1回 なお、テストピースは打設場所にて採取し、1回につき6本(σ7…3本、σ28…3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3…3本についても採取する) 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。			
		試験項目・試験方法	試験基準・適用	規格値																					
スランプ試験 JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																							
空気量測定 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡毎に1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																							
塩化物総量規制 コンクリートの耐久性向上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前中に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502.503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 																							
単位水量測定 レディミクストコンクリートの品質確保について	1日当たりコンクリート種別ごとの使用量が100m ³ /日以上の場合:2回/日(午前1回、午後1回)、または構造物の重要度と工事の規模に応じて100～150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。																							
コンクリートの圧縮強度試験 JIS A 1108	<ul style="list-style-type: none"> ・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎡ごとに1回 なお、テストピースは打設場所にて採取し、1回につき6本(σ7…3本、σ28…3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ3…3本についても採取する) 	小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上。またレディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。																							
※コンクリートの圧縮強度試験については、試験基準・適用に定められた頻度に応じた供試体採取を行っているかを確認する。																									

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考		
				年	月	日	○	□	△				
コンクリート (吹付) (覆工) (インパート) 1	コンクリート受入時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。	施工時	テストハンマーによる強度推定調査を実施する場合は、事前に段階確認に係わる報告を所定の様式により監督職員に提出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法(JSCE-G504)による強度測定調査を、目地間を1構造物の単位(100mを超えるトンネルは、100mを超えた箇所以降は、30m程度毎に1箇所を調査単位)として実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	テストハンマーによる強度推定調査の結果、所定の強度が得られない場合については、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	再調査の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1カ所の強度が設計強度の85%を下回った場合に、JIS A1107により、現位置のコアを採取し、圧縮強度試験を実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	吹付コンクリートの施工にあたって、浮き石等を除いた後に、吹付けコンクリートの一層の厚さが15cm以下で地山と密着するよう施工していることが確認できる。	施工時	吹付けコンクリートを浮石等を取り除いた後に、吹付けコンクリートと地山が密着するようにすみやかに一層の厚さが15cm以下で施工していることが確認できる。(ただし、坑口部及び地山分類に応じた標準的な組合わせの支保構造の場合。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	吹付けコンクリートの施工については、はね返りをできるだけ少なくするために、吹付けノズルを吹付け面に直角に保ち、ノズルと吹付け面との距離及び衝突速度が適正になるように、かつ、材料の閉塞を生じないよう行われていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	吹付けコンクリートの仕上がり面が平滑になるように行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
		施工時	鋼製支保工がある場合には、吹付けコンクリートと鋼製支保工とが一体になるように吹付けており、また、鋼製支保工の背面に空隙が残らないように吹付けていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
	吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃したうえで、湿潤状態で施工していることが確認できる。	施工時	吹付けコンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃したうえで、湿潤状態で施工していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日	月	年	○	□	△					
コンクリート (吹付) (覆工) (インパート)	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設方法及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。	打設時	練り混ぜてから打ち終わるまでの時間が、外気温が25℃を超える場合で1.5時間以内、25℃以下の場合で2時間以内となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【暑中コンクリート】 日平均気温が25℃を超えることが予想されるときは、暑中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリート温度は35℃以下であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設前	【寒中コンクリート】 日平均気温が4℃以下になることが予想されるときは、寒中コンクリートとしての施工を行っており、打ち込み時のコンクリートの温度を、構造物の断面最小寸	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設時	シュート、ポンプ配管、バケツ、ホッパー、セントルの開口部等の吐出口と打込み面までの高さは1.5m以下となっていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		打設時	コンクリートが鉄筋の周囲及び型枠のすみずみに行き渡るように打設し、バイブレータ間隔50cm以下、1箇所あたりの振動時間5～15秒程度で速やかにコンクリートを締め固めていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。	脱型時	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場で採取した供試体と同一品であることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□
鉄筋・型枠 (覆工) (インパート)	鉄筋の貯蔵方法が適切であることが確認できる。	施工時	屋外に貯蔵する場合は、枕木・盤木等を適切に配置し鉄筋を直接地表に置くことを避け、雨水等の侵入を防ぐためシート等で適切な覆いをしていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋の加工方法が適切であることが確認できる。	施工時	現場加工においては、鉄筋を常温で加工していることが確認できる。(やむを得ず熱して加工する場合は、現地試験施工を行い、悪影響を及ぼさないことを確認したうえで施工している。)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋組立前及び組立後の清掃状況が適切に行われていることが確認できる。	施工時	鉄筋組立て前及び組み立て後コンクリートを打ち込む前にこれを清掃し、表面に浮き錆、どろ、油、ペンキ等有害な物質が付着していないか、コンクリート打設前に鉄筋の位置のずれが無いことが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:
------	-------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
				日	月	年	○	□	△					
鉄筋・型枠 (覆工) (インパート)	覆工コンクリートの鉄筋は堅固に組み立てられており、防水シートを損傷させていないことが確認できる。	施工時	覆工コンクリートを補強するための鉄筋の施工は、防水工を破損しないように取り付けるとともに、所定のかぶりを確保し、自重や打ち込まれたコンクリートの圧力により変形しないよう堅固に固定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	鉄筋の固定方法が適切であることが確認できる。	施工時	図面に定めた位置に鉄筋を配置し、交点の要所を直径 0.8mm以上のなまし鉄線またはクリップで緊結し、コンクリート打設中に動かないよう堅固に組み立てていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	使用する型枠材は適切であることが確認できる。	施工時	型枠は、メタルフォームまたはスキムプレートを使用した鋼製移動式のものを使用していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	型枠の脱型時期は適切であることが確認できる。	施工時	打込んだコンクリートが必要な強度に達するまで型枠を設置していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
インパート工	インパートコンクリートの打設方法は適切であることが確認できる。	施工時	インパート部を掘削した後、すみやかにインパートコンクリートを打込んでいることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	インパートコンクリートの縦方向打継目を設ける場合は、中央部に1ヵ所としていることが確認できる。	施工時	インパートコンクリートの縦方向打継目を設ける場合は、中央部に1ヵ所としていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	インパートの埋め戻し方法は適切であることが確認できる。	施工時	インパート盛土の締固め度を施工管理基準に基づき管理していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
防水工 覆工	防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。	施工時	防水工に止水シートを使用する場合には、止水シートが破れないように、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	防水工に防水シートを使用する場合は、ピン等により固定させているか、また、シートの接合面は漏水のないように接合させていることが確認できる。	施工時	防水工に防水シートを使用する場合は、ピン等により固定させているか、また、シートの接合面は漏水のないように接合させていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	

施工プロセス検査(実施状況) チェックシート (期間: 年 月 日～ 年 月 日)

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【トンネル工事(NATM)】

施工フロー	チェックポイント	時期	チェック項目	上段:日付・チェック欄						下段:コメント	備考			
防水工 覆工	覆工の施工時期は適切であることが確認できる。	施工前	覆工の施工時期について、地山、支保工の挙動等を考慮し、決定していることが確認できる。(覆工開始の判定要領を施工計画書に記載するとともに判定資料を整備保管している)	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	覆工のコンクリートの打設時期を計測(A)の結果に基づき、設計図書に関して監督職員と協議しつつ設定していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	覆工厚の刻示は必要な箇所に設けられていることが確認できる。	施工前	覆工厚の変化箇所には設計覆工厚を刻示していることが確認できる。(取付位置は起点より終点に向かって左側)。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	覆工厚が同一の場合は、起点及び終点に刻示しなければならない。
裏込注入工 <small>実施する場合</small>	裏込注入の施工時期は適切であることが確認できる。	施工時	裏込注入工は覆工コンクリート打設後、早期に実施していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	注入材、注入時期、注入圧力、注入の終了時期は設計図書のとおりであり、監督員の承諾を得ていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
	裏込注入の施工方法は適切であることが確認できる。	施工時	裏込め注入の施工にあたり、埋設注入管のうち一般に縦断勾配の低い側より、逐次高い方へ片押しで作業していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	トンネル横断面の断面部には、下部から上部へ作業を進めており、上部の注入孔は栓を開けて空気を排出していることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	
		施工時	注入孔は硬練りモルタルにより充填し、丁寧に仕上げていることが確認できる。	/	□	/	□	/	□	/	□	/	□	